「すべての人々に、力を。」

えんぱわ

EMPOWER

Vol.56

2020 年2月

特集

ベトナム
ハイフォン市での障がい児支援
-10 年間の成果と課題 -

https://www.facebook.com/efajapan.org/ https://www.facebook.com/efajapan.org/ https://www.facebook.com/efajapan.org/ https://www.facebook.com/efajapan.org/

エファジャパン
公式フェイスブック

特集 ベトナム ハイフォン市での障がい児支援 -10年間の成果と課題-

私たちエファジャパン（以下エファ）は、ベトナム第4の都市と言われるハイフォン市で、障がい児支援を2010年より行ってきました。2016年からは、同市ソーシャルワークセンター（以下SWC）との協力も本格的に開始しました。10年が経過し、支援開始当時に求められていたニーズも変化、また、ベトナムの社会的な状況も大きく変容してきました。今後の私たちの活動が、同市に暮らす子どもたちにとってより良い支援となるよう、これまでの活動を一旦ここで振り返ることにしました。2019年10月には、エファのスタッフ3名と理事1名が同市に赴き、現地調査も実施しました。同市での10年間の障がい児支援の成果と、見えてきた課題を報告します。

エファがめざしたもの

国の中央直轄市の一つであるハイフォン市で、エファが障がい児支援をはじめた当時、同市の中心部には、リハビリテーションセンターや盲学校、聾学校など福祉関係の専門施設や学校などは既に存在していました。しかし、中心部から距離がある農村が多い郊外には、障がい児に対する基本的で必要最低限のサービスも普及していませんでした。また、中心部にある施設や学校などからの専門的な支援や、中心部への通所などによるサービスの利用も難しい状況でした。さらに住民たちの障がい児に対する理解や知識もほとんどなく、障がい児の家族も孤立しがちでした。また既に多くの村や町には、障がい児クラブが設置されていましたが、その存在はほとんど知られていませんでした。従って、郊外に住む障がい児の多くは、外出することが少なく、社会参加の機会が得られず、劣悪な環境で生活していました。

そこでエファは、既にあった障がい児クラブを利用して、障がい児に提供するサービスの基盤整備を目的としてクラブの支援を始めました。具体的には、クラブでの遊びや学習などの活動を活性化させ、障がい児が外出して地域社会に参加できる支援を実施しました。同時に、リハビリや福祉サービスの知識を障がい児の保護者に紹介する機会をつくり、家族への支援も実施、保護者同士の交流の促進も実施しました。さらに、SWCが2016年に本格的に稼働し始めると、SWCを中心に障がい児が必要としている関係各機関のサービスを活用できるようなソーシャルワーク機能の強化もめざしました。

●タンフォン村障がい児クラブで行われた保護者向けのリハビリ研修（2014年撮影）

10年間の支援による成果

●ティエンラン町の人民委員会（村役場）で協議するエファスタッフ・理事（右側）と同町の障がい児クラブ担当者

障がい児支援が始まって10年。2016年からはSWCと協力しながら障がい児の支援を続けてきました。2019年10月に実施したエファスタッフと理事による現地調査では、SWCなどの関係機関との協議や実際に障がい児やその家族から話を聞くことによって、これまでの障がい児に対する支援の成果を改めて知ることができました。

まず障がい児クラブの運営を担っていた村や町の中から、タンフォン村とティエンラン町のクラブの運営担当者から話を聞きました。どちらにおいても、クラブの活動が定期的に行われるようになって、地域の人たちの障がい児に対する理解が進んだことを大きな成果として挙げてくれました。また保護者に対

注）撮影年の記述がない写真はすべて2019年10月に撮影。

※自治労東京都障害労働者連絡会のOB・OGと現役の有志が中心となり設立されたNPO。2015年と17年に、中古の車椅子を日本で整備し、ハイフォン市の障がい児に贈っていただいた。

●障がい児クラブで好きだった歌を歌ってくれたヴュー ミン ヒエウ君

するリハビリの技術研修や、保護者同士で悩みや情報を共有し合うミーティングを実施、さらに専門家による家庭訪問・個別カウンセリングにより、障がい児を持つ家族の障がいに対する理解も進んだとのことでした。2つの地域では、実際にクラブを利用していた障がい児、計6名の家庭にも訪問し、本人や家族へのインタビューを行いました。障がい児クラブでの活動について以下のような感想が寄せられました。

「クラブでは友だちと遊んだり、大好きな歌をうたったり出来てとても楽しい」

（重度小児麻痺・15歳・男子）

「学校に通っているが、勉強の内容が理解できない。クラブでのお絵描きや歌の活動などはとても楽しく、通い始めてからは挨拶などもできるようになった」

（重度知的および視覚障がい・9歳・女子）

「クラブから帰宅後にはとてもうれしそうで、描いた絵やもらって来たお菓子などを見せてくれる」

（ダウン症・8歳・女子の保護者）

SWCとの協議では、

1. 市民の障がい児に対する理解が深まった。
2. 市内の各地域にある障がい児クラブの活動は質、量ともに拡大、向上した。
3. 障がい児に対する家族の理解も深まり、子どものケアに関する知識やスキルも向上した。
4. SWCのスタッフのスキルや知識も向上した。

などが、成果として挙げられました。

見えてきた課題

一方で、様々な課題も浮き彫りになりました。障がい児クラブに関しては、安定的・継続的に活動するための財政的、人的な支援体制が確立されていません。また、保護者や家族のクラブへの関わりも、自主的にクラブの運営を行うまでの意識の高まりや組織化がされませんでした。

また、SWCに期待された市内の障がい児に対する有機的なソーシャルワーク機能は軌道にはのっていません。その原因としては、人手（スタッフ）不足や財政の問題、また日本でも見られるタテ割り行政による弊害との指摘がされました。

実際に障がい児クラブを利用してきた子どもや保護者からは、今後もクラブの活動を継続して欲しいとの希望があります。また以前「東南アジアの障害児に車椅子を贈る会」（※）のご協力を得て贈った車椅子ですが、未だ数が十分ではなくニーズがありました。今後は、SWCが様々なサービスや施設を繋ぐためのソーシャルワーク機能をさらに強化することで、障がい児の生活環境がさらに良くなっていくと考えられます。

これからに向けて

SWCとの協議の席では、今後に向けての話し合いも行われました。同センターからは国内で近年、関心が高くなっている自閉症児や発達障がい児に特化した支援についての説明がなされました。

エファとしては今回の現地調査を踏まえ、どのような支援を今後行っていくのかを慎重に、そして出来るだけ早く決定していきたいと考えています。

社会福祉に関する様々な問題の解決への道のりは、時に、終わりがないように感じることもあります。私たちは、そこに生きる人たち、子どもたちが、幸福に、自らの力で生きて行けるようなお手伝いを、今後もしていきたい。そう考えています。

●脚に障がいを持つグエン ティ タイン リさん。この笑顔が続くような支援を続けて行きたい…

支援国から活動報告

ラオス

◆ 自治労東海地連の支援で小学校に図書を寄贈
「書き損じハガキ」資金で図書館協会へ支援

中部サワンナケート県のナーハンケー村にある同村小学校の校舎は、自治労東海地区連絡協議会（東海地連）の支援で 2015 年に建設されました。その後も支援を継続していただき、2019 年 10 月にも図書 315 冊の購入を支援いただきました。

また、みなさんからいただいた「書き損じハガキ」を換金した資金で、ラオス図書館協会のプロジェクトである新しい図書館システムの構築に必要なパソコンやソフトウェアを寄贈しました。さらにシステム運用のために必要な、職員に対するワークショップの開催にも支援を実施しました。このシステムにより 4 つの図書館の図書データの検索がしやすくなります。

●熱心にワークショップに参加する職員たち

カンボジア

◆ 鹿児島県労福協のメンバーが支援地を訪問
自治労岡山県本部と「書き損じハガキ」資金から支援

鹿児島県労働者福祉協議会 (鹿児島県労福協) には、2012 年からカンボジアの子どもたちへの支援をいただいています。同協議会の 3 名の役員が、2019 年 11 月にカンダール県バンディアイデック村学童保育所と現地 NGO の SCADP が首都プノンペンで運営する児童保護施設を訪問、施設で暮らす子ども 22 名に教科書や文房具、制服を寄贈いただきました。

11 月下旬には自治労岡山県本部からのご支援で、SCADP が運営するプレアビヒア州の児童保護施設で生活する子どもたちに、学校の制服や教科書、また文房具を寄贈しました。文房具の購入には、「書き損じハガキ」による資金も使わせていただきました。

●制服や教科書を手に、笑顔の子どもたち

国内

◆ 自治労熊本県本部・大分県本部のみなさんに今年もエファの広報をしていただきました

●お揃いの T シャツを着て記念写真に収まる、自治労熊本県本部のみなさん

全日本自治団体労働組合（自治労）組合員のみなさんには、2019 年も様々なカタチで支援をいただき心より感謝申し上げます。

自治労熊本県本部では、9 月 27 日～ 28 日に開催されました、同県本部の第 83 回定期大会にて、会場内にエファのブースを設置していただきエファグッズの販売をしてくださいました。また初日の昼休みには、エファ広報の時間を設けていただきました。独自に製作していただいたエファのロゴマーク入りのおそろいの T シャツを着て、エファの紹介ビデオを放映していただいた後、同県本部の国際協力活動の紹介、2015 年に参加いただいた、エファの支援地をめぐるスタディツアーで撮影した写真を使用したパネルの紹介などをしていただいたとのことです。「かわいいグッズがたくさん！」との組合員のみなさんの声も多く、新商品のグッズを中心に販売、またカンパも集めていただきました。

自治労大分県本部のみなさんにも、9 月 19 ～ 20 日に開催された同県本部の定期大会にてエファグッズの販売をしていただきました。

自治労各都道府県本部、単組のみなさん、他に大学や高校のサークルなどでも、エファの広報やグッズの販売ご協力いただければ嬉しく思います。興味のある方は、エファ事務所までお問い合わせください！

NEWS

MSD 株式会社のみなさんがボランティアに協力してくださいました

毎年ボランティアに協力いただいている MSD 株式会社は、アメリカのニュージャージー州に本社を置く世界的な製薬会社 Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A. の日本法人です。CSR（企業の社会的責任）活動の一環として、「地域社会とともに共生し発展していくために」という目標を掲げ、社員によるボランティア活動が活発に行われています。

2019 年も 11 月にエファのボランティアに協力いただきました。新たに完成した「書き損じハガキ」と「古本募金」募集の新ポスター 2500 枚の発送準備を、約 60 名の社員の方々が行ってくれました。参加した社員の方々からは、「最初はポスターの山を見てどうなることかと思いましたが、終わった時の達成感は最高でした！」、「普段お話をしたことがない社員とも話が出来て貴重な体験でした」などの感想をいただきました。

今年のボランティア活動の担当・千田さんは、「予想以上に多くの社員に参加してもらい、エファさんのお役に立てて良かったです。また社員同士の交流の機会にもなり、貴重な体験でした！」と話してくださいました。ご協力ありがとうございました！

●作業終了後、記念写真に収まる社員のみなさん

Interview　中西 満さん（エファジャパン理事）

「ハイフォン市の障がい児の今を自分で見ることができ本当に良かったです」

ベトナム・ハイフォン市の障がい児支援事業の開始当時から、様々な形で関わっている中西 満エファジャパン理事。２０１９年１０月に行った調査にも同行しました。

中西 満 理事

Q. ベトナム・ハイフォン市での調査の全体的な感想をお願いします。

A- 急速な経済成長を反映した街の活気とは裏腹に、福祉施策の整備は追い付いていないと感じました。とりわけ、広域に分散する農村部における福祉基盤は極めてぜい弱だという印象を持ちました。

Q. 今回の調査で最も印象に残った出来事は何でしたか？

A-就学していなかったり、日中、地域の中で活動の場がなかったりする障がいを持った子どもたちは、自らが参加し、活動できる場所を求めていたことです。地域の障がい児クラブの活動が、そうした子どもたちの期待に応えている事業であるとの実感を持ちました。

Q. 今後、エファがベトナムで実施していく支援事業について、理事としてどのように考えていますか？

A-あまりにもぜい弱な福祉基盤の中では、性急に支援の成果を求めることは困難と思われます。現地の実態を踏まえ、子どもたちのニーズに寄り添う息の長い支援が必要ではないかと、今回のベトナム訪問で感じました。

EFA's EYE

日本在住のラオス人は約 2500 人。その多くが神奈川県に住んでいます。かつてのインドシナ内戦で日本に逃れてきた難民に対して、日本政府が支援を行っていた定住促進センターが、同県の大和市にあったためだと言われています。小田急線厚木駅からバスで 40 分の愛川町にあるラオス仏教寺院（在日本ラオス文化センター）で行われたお祭りに行ってきました。

ラオス人が大切にしてきた仏教のお祭り

神奈川県愛川町で行われたタート・ルアン祭りに行ってきました

①

②

③

④

⑤

2019 年 11 月 17 日（日）。神奈川県愛川町にある「在日本ラオス文化センター」ではラオスの「タート・ルアン祭り」が行われていました。タート・ルアンとは、ラオスの首都ビエンチャンにある国内で最も格式が高い寺院で、その特徴的な姿は国章にも描かれています。ラオスでは、11 月の満月の日を中心に約 1 週間行われる最大のお祭りで、国内外からの多くの人出でにぎわうそうです。

日本で唯一のラオス仏教の寺院でもある同センターは、2003 年に開館。在日ラオス人たちがお金を出し合って家を購入し、少しずつ改築してきたそうです。今ではタート・ルアンを模した仏塔や、仏像が並び、休日には多くのラオス人たちが集っています。お祭りの当日も、同県内外から多くのラオス人たちが集まっていました。本国から呼び寄せた僧侶とお経をあげ、持ち寄った果物などの食べ物を喜捨していました。

日本に定住したラオス人の第一世代の人たちは 70 歳代となり、その子どもたちの第二世代にも子どもが生まれ、第三世代も多くなっているそうです。また、「技能実習制度」や「特定技能」を持つ外国人の在留を認めるなど、日本に住む外国人は年々増加しており、それに伴い、様々な問題が出てきています。私たちエファは今後、日本に住む外国人にも注目していきたいと考えています。

写真説明　①持ち寄った食べ物を喜捨する参加者たち ②民族衣装で着飾った女性たち ③本物の「タート・ルアン」を模した仏塔が敷地内には建てられている ④仏教はラオス人の心の拠りどころ 。真摯に祈る姿が印象的だった⑤多くの第二、第三世代も参加していた

マサヒロ先生の SDGs教室 第3回

作画：ヘッポコ絵描きのyakko

登場人物：マサヒロ先生（某 NPO 法人・事務局長）
ユウコさん（某 NPO 法人・新人職員）

この作品に出会う

映画 『Journey to be continued －続きゆく旅－』

「友だちなどいなかった、夢も持てなかった…」
～定住外国人の子どもたちの心の旅

岐阜県の中南部に位置する可児市。豊かな自然が今も残る一方、自動車関係の製造業などが盛んで、ブラジル人やフィリピン人を中心に、多くの外国人が暮らしています。統計によると市民の 20 人に１人が外国人で、そのうちの４割が10～20代の若者です。

市内に住む外国人の支援活動を行う NPO 法人可児市国際交流協会が運営する「さつき教室」（※義務教育の年齢を超えた外国籍の子どもたちのための高校進学支援教室）には、日本で生まれ育った子や本国での学業半ばで呼び寄せられた子など、様々な子どもたちが通っています。しかし、多くのこどもたちは日本の文化や慣習を持たないことで、地域社会での居場所を上手く見つけられず、様々な問題を抱えています。

「イミグレーション・ミュージアム・東京」というプロジェクトを主宰する美術家で、監督を務めた岩井成昭さんは、多文化社会などをテーマにした作品を発表しています。この映画では、主に「さつき教室」に通う外国人の子どもたちに巨大なキャンバスを用意し自由に絵を描かせ、対話を進めます。そして彼ら彼女らのこれまで、これからについての思いを表出させていきます。子どもたちの壊れてしまいそうな心の動きがストレートな言葉で紡ぎ出され、それが現代の日本社会の限界と問題点をあぶり出します。

この作品は、自主上映のみで視聴が可能となっています。お問合せは、右の「NPO 法人可児市国際交流協会」（http://frevia.nows.jp/）まで、お願いします。

『Journey to be continued －続きゆく旅－』
© NPO 法人可児市国際交流協会

予告編　：https://youtu.be/5feFdneMmN8
監督　：岩井成昭
企画・製作：Sin Titulo
出演　：可児市国際交流協会「さつき教室」生徒　ほか、可児市および周辺の外国につながる青少年
助成　：可児市
（2016 年撮影）

※この作品に関するお問合せは下記まで

NPO 法人可児市国際交流協会
電話：0574-60-1200
ファックス：0574-60-1230
E メール：npokiea@ma.ctk.ne.jp
〒509-0203
岐阜県可児市下恵土 1185-7

★「駐在員ライフ」は、しばらくお休みします。

お知らせ

「書き損じハガキ」と「古本募金」募集のポスターが完成しました！

恒例の「書き損じハガキ」と「古本募金」募集の新ポスターが完成しました！今回もボランティアのデザイナーさんが、かわいいデザインをしてくれました。今年は「書き損じハガキ」のキャラクターのゾウさんと「古本募金」のキャラクターのトリさんが、様々なスポーツに挑戦しています。国内各地のボランティアセンターや国際交流協会、自治労の各都道府県本部などでご覧になれると思います。

また、サークル活動やグループなどでポスターをご入用の方、「書き損じハガキ」収集用の箱をご入用の方、数に限りがありますが、お送りいたします。エファ事務局（電話：03-3263-0337　メール：info@efa-japan.org）までご連絡ください。

今年も「身近なことでできる国際協力」でのご協力をお待ちしております！

エファジャパンは認定ＮＰＯ法人です

認定 NPO 法人であるエファジャパンへの会費（正会員を除く）、寄付、古本募金などの支援は税制優遇の対象となります。詳しくはエファジャパンＨＰをご覧いただくか、エファジャパン事務局までお問い合わせください。

今号の表紙

今号の表紙は、ベトナム・ハイフォン市のティエンラン町で撮影した一コマです。巻頭特集で報告しました、同市の障がい児支援の現地調査。インタビューが終わり引き上げる私たちを、ダウン症の女の子（写真中央）が、母親（写真右）とソーシャルワークセンターのスタッフ（写真左）としっかりと手を繋いで、見送りに来てくれました。髪の毛を揺らしながら跳ねるように歩く彼女の嬉しそうな後ろ姿が、心に残りました。

えんぱわ エファジャパン広報誌　Vol.56
発行人・伊藤道雄　編集・エファジャパン事務局

Empowerment for all Japan エファジャパン
特定非営利活動法人エファジャパン
〒 102-0074
東京都千代田区九段南 3-2-2　九段宝生ビル 3F
TEL:03-3263-0337 FAX:03-3263-0338
E-Mail:info@efa-japan.org
URL:http://www.efa-japan.org
HP はこちらからも！→

認定ＮＰＯ法人エファジャパンは東南アジアで教育事業を実施するＮＧＯ団体です。エファ（Efa）とは Empowerment for All「すべての人々に、力を。」の略。エファジャパンは支援を受ける人々が、自ら立ち上がる力を得ることを大切に考えています。